

平成31年度スクールプラン

(様式)

平成31年度学校教育目標		知・徳・体の調和のとれた、心豊かで、学校や地域を愛し、自主自立の精神に満ちた生徒の育成				北九州市立	穴生	中学校			
本年度の重点		4～8月 第1期 中間評価		～12月 第2期 中間評価		年度末評価					
達成目標(本年度のゴール)	ゴールに向けた重点的取組	取組状況	○成果 ◆課題と改善点	取組状況	○成果 ◆課題と改善点	達成目標の評価と次年度の方向性					
【授業改善】 【授業改善①】 「授業の中で目標(めあて・ねらい)を明確にし、めあてを意識しながら授業に取り組めた。」(90%) 【授業改善②】 「生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる。」の肯定的回答をする。(80%) 【数学科での授業改善】 ◇質36「数学の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか」について、肯定的な回答をした生徒の割合 [85%以上] 【学力定着】 【自主的な学習】 「自分で計画を立てて勉強をしている」で生徒が肯定的回答をする。(60%) 【補充学習】 「平日に家庭学習を1時間以上している」と回答をする。(60%)	○管理職や学力向上担当が積極的に関わり、月1回若年研修を実施し、若年層を中心に教科横断的な人材育成を行う。 ○学期末にアンケートをとり、学びの実態を把握する。 ○学力向上推進教員を活用し、「めあて」と「まとめ」の整合性と生徒がめあてを意識して学習に取り組む授業づくりを実践する。 ○研究授業を通して、授業力向上を図る。 ○各教科で一単元の授業の中に、計画的に話し合う活動を取り入れ、穴生ALルールを習慣づけて、生徒が自分の意見を語ることができ、他の生徒の意見を認める学級の雰囲気醸成し、コミュニケーション能力の育成を図る。										
	○学期ごとにアンケートを実施し、生徒の実態を把握して、効果的な板書計画を行う。 ○数学科の教科部会を定期的に実施し、共通したノートづくりを行う。 ○学力向上推進部で検討を重ね、教科間の連携を図りながら学校全体でノート作りに取り組む。 ○生徒が見通しをもって学習に臨めるように、各章ごとに観点ごとの達成目標を提示する。										
	○「学習のすすめ」を作成し、各教科の家庭学習の方法や手順を生徒や保護者に提示し、家庭学習の定着を目指す。 ○調査前に学習計画表を作り、計画の立て方を指導する。 ○教科係による補充学習など主体的に学ぶ習慣を定着させ、自ら学びに向かうように指導する。 ○毎日の自主学習をAノートで実施し、その日の学習計画を立てる習慣と家庭学習の定着を図る。 ○放課後、自主学習が行えるように図書室を開放し、自主的に学習する習慣の定着を目指す。										
目標 <全国・北九学区生徒質問紙等>	質問番号 H30 H31	生徒質問内容 ※右の%は 肯定的回答(「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」等)の割合の合計			平成30年度全国学力・学習状況調査の結果 (または学校独自アンケート)	平成30年度北九州市学力状況調査 (または学校独自アンケート) 中1の結果 中2の結果		平成31年度全国学力・学習状況調査の結果 (または学校独自アンケート)	H30中2 H31中3 の比較	平成31年度北九州市学力状況調査 (または学校独自アンケート) 中1の結果 中2の結果	
学 び の 育 ち	授業改善	54	32	生徒間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか	78.6 %	66.1 %	69.8 %	%	%	%	%
		36		数学の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか	83.2 %	81 %	83.8 %	%	%	%	%
	学習定着	10	17	家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか	54.2 %	40.5 %	59.6 %	%	%	%	%

本年度の重点		4～8月 第1期 中間評価		～12月 第2期 中間評価		年度末評価			
達成目標(本年度のゴール)	ゴールに向けた重点的取組	取組状況	○成果 ◆課題と改善点	取組状況	○成果 ◆課題と改善点	達成目標の評価と次年度の方向性			
【授業改善】 ◇〈生徒質問紙(17)〉 「体育の授業は楽しい」の肯定的な回答をした生徒の割合 (男子90%) (女子75%) 【運動習慣】 ◇〈生徒質問紙(14)〉 「健康であるために運動は大切である」の肯定的な回答をした生徒の割合 (男子90%) (女子95%)	○毎時間の体育の授業で、生徒のモチベーションを高めるため、小集団による自主的な活動を取り入れ、生徒が自主的に活動する場面を増やしていく。 ○汗をかく体育授業を実践し、体を動かす喜びが実感できるようにするとともに、生徒一人一人に達成感が得られる授業展開の工夫を行う。 ○学習の流れやゴールを明確にした学習ノートを作成し、思考力向上、指導と評価の一体化を目指す。								
	○運動の効果と、健康づくりのための運動の行い方や、生活の中に運動を取り入れる方法など、保健授業の内容から理解させ、生活の中に運動を取り入れるためにどんなことができるのか考えさせる。 ○健康の保持増進のために運動は大切であるという意識をもたせたくて、体育授業の準備運動の持久力を高める運動や筋力を高めるジャンプアップ運動等に目的をもって取り組ませる。 ○新体力テストの全国平均の数値や、前年度の自らの数値から自らの課題を明確にし、現状を把握させることで体力向上に対する意識を高める。								
	○新体力テストの全国平均の数値や、前年度の自らの数値から自らの課題を明確にし、現状を把握させることで体力向上に対する意識を高める。								
目標 <全国体力生徒質問紙等>	質問番号 H30 H31	生徒質問内容 ※右の%は 肯定的回答(「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」等)の割合の合計			平成30年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果(または学校独自アンケート)		平成31年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果(または学校独自アンケート)		
授業改善	17			保健体育の授業は楽しい	87.1 %	70.0 %	%	%	
	22			ふだんの保健体育の授業では、友達同士やチームの中で話し合う活動を行っていますか	74.3 %	76.8 %	%	%	
運動習慣	14			健康であるために運動は大切である	89.8 %	95.6 %	%	%	
	6			学校の体育の授業以外でも運動やスポーツを行っている(※60分以上行う割合)	80.3 %	75.0 %	%	%	

平成31年度スクールプラン

平成31年度学校教育目標		知・徳・体の調和のとれた、心豊かで、学校や地域を愛し、自主自立の精神に満ちた生徒の育成						北九州市立		穴生		中学校	
本年度の重点		4～8月 第1期 中間評価				～12月 第2期 中間評価				年度末評価			
達成目標[本年度のゴール]		ゴールに向けた重点的取組		取組状況		○成果 ◆課題と改善点		取組状況		○成果 ◆課題と改善点		達成目標の評価と次年度の方向性	
心の育ちに関する取組	【授業改善(道徳)】 ○「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」において、生徒が肯定的な回答をする。(97%) ○「人の役に立つ人間になりたいと思う」において、生徒が肯定的な回答をする。(97%)	○道徳の授業に考える・論議するなど問題解決的な内容を取り入れ、生徒の共感的な態度を養う集団作りを行う。 ○道徳の授業で穴生ALルールを活用し、自己肯定感の向上と他者の意見から学ぶ習慣を養う。 ○平和に関する学習と人権に関する学習を計画的に取り入れ、生徒に思いやりの心を育てていく。											
	【授業改善(特別活動)】 「自分には、よいところがあると思う」の肯定的回答をする。(85%)	○学級活動や体育大会、宿泊行事等で、ねらいを明確にして活動を行い、生徒の主体性を育てながら自尊感情を高めていく。また、それぞれの活動についてしっかり評価する。 ○学級活動で穴生ALルールを活用した取組を実施し、主体性を養うとともに自己肯定感の向上と共感的な態度の醸成を目指す。 ○清掃活動を通して、自分の心と向き合い精神的な成長を図る。											
	目標 <全国・北九学調生徒質問紙等>	質問番号 H30 H31	生徒質問内容 ※右の%は 肯定的回答(「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」等)の割合の合計				平成30年度全国学力・学習状況調査の結果 (または学校独自アンケート)	平成30年度北九州市学力状況調査 (または学校独自アンケート)		平成31年度全国学力・学習状況調査の結果 (または学校独自アンケート)	H30中2 H31中3 の比較	平成31年度北九州市学力状況調査 (または学校独自アンケート)	
心の育ち	授業改善(道徳)	5	15	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う				96.2 %	92.6 %	95.6 %	%	%	%
	授業改善(特別活動)	1	5	自分には、よいところがあると思う				82.4 %	58.7 %	75 %	%	%	%
	授業改善(特別活動)	6	16	人の役に立つ人間になりたいと思う				96.2 %	88.5 %	91.1 %	%	%	%
生徒指導	規範意識	4	13	学校の規則を守っている				95.4 %	91.7 %	97.8 %	%	%	%

本年度の重点		4～8月 第1期 中間評価				～12月 第2期 中間評価				年度末評価			
達成目標[本年度のゴール]		ゴールに向けた重点的取組		取組状況		○成果 ◆課題と改善点		取組状況		○成果 ◆課題と改善点		達成目標の評価と次年度の方向性	
学校組織と研修に関する取組	【授業力向上】 ○「授業改善に向けて日々の授業改善に取り組んだ」の肯定的回答をする。(90%) ○「学力向上に向けて組織的に取組を進めた」の肯定的回答をする。(85%)	○授業改善と学力向上の取り組みを学校挙げて推進するため、年間3回の研究授業を実施し、全職員参加による協議会を併せて実施する。 ○穴生中スタンダードを意識した教育活動を実践する。 ○学力向上推進教員のモデル授業を基に、全職員でワークショップ型の研修を行い、自らの授業を振り返ることで授業力の向上を図る。 ○スクールプランの目標を達成するために、全国学力・学習状況調査等の分析を行い、定期的にPDC Aサイクルに取り組む。											
	【業務改善・地域との連携】 ○元気に笑顔で生徒の前に立てる職場環境づくりに取り組む。 ○「今住んでいる地域の行事に参加している」の肯定的回答をする。(70%)	○年休取得日数平均7日以上を目指す。 ○年間平均残業時間を月60時間以内、最大80時間以内にする。 ○会議を精選し、放課後の時間を有効活用する。 ○部活動の適正化 ○作成書類等の共有化 ○穴生まつりに生徒会執行部や部活動での参加を積極的に行う。 ○地域の歴史を学び、地域を大切にしたい気持ちを育てる。											
	目標 <全国・北九学調生徒質問紙等>	質問番号 H30 H31	生徒質問内容 ※右の%は 肯定的回答(「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」等)の割合の合計				平成30年度全国学力・学習状況調査の結果 (または学校独自アンケート)	平成30年度北九州市学力状況調査 (または学校独自アンケート)		平成31年度全国学力・学習状況調査の結果 (または学校独自アンケート)	H30中2 H31中3 の比較	平成31年度北九州市学力状況調査 (または学校独自アンケート)	
地域	地域参加	20	23	今住んでいる地域の行事に参加している				71.8 %	32.2 %	39 %	%	%	%
								%	%	%	%	%	%
								%	%	%	%	%	%
								%	%	%	%	%	%